マルコの福音書 3:13-30　従う者か、家族か、あるいは偽教師か
今日は、先週見た個所の最後の部分に戻ります。もう一度マルコの福音書 3 章 13 節から、弟子たちの選びを見てから、今日は 19 節以降の箇所との関連を見て、27 節まで進みたいと思います。なぜ、その同じ個所まで戻るのかというと、マルコが論じているグループには、弟子や使徒に始まり 3 つのグループがあるからです。それらの 3 つのグループの人たちのイエスに対する反応は異なっています。そして、これら３つのグループは今日の私たちのイエスに対する応答を示しています。私たちが答えるべき問いは、私たちが従う者なのか、家族なのか、あるいは偽教師なのかです。先週の箇所である 13 節から、まずはイエスに従う者について読みましょう。「さて、イエスが山に登り、ご自分が望む者たちを呼び寄せられると、彼らはみもとに来た。 14 イエスは十二人を任命し、彼らを使徒と呼ばれた。それは、彼らをご自分のそばに置くため、また彼らを遣わして宣教をさせ、 15 彼らに悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。 16 こうしてイエスは十二人を任命された。シモンにはペテロという名をつけ、 17 ゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、この二人にはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。 18 さらに、アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、 19 イスカリオテのユダを任命された。このユダがイエスを裏切ったのである。」

先週も同じ個所を読んだわけですが、これらの人たちからイエスに従う者たちについて何を見ることができるか思い出してみましょう。まず第一に彼らは罪人であり、また自分たちが罪人であることを認識してました。ペテロを例にとってみましょう。マルコの福音書を読み進めていくと、マルコを通してペテロが語っている出来事から、ペテロ自身が自らを何か偉大な聖人のように思っていたわけではなく、むしろ救い主イエスを必要としている罪人であると思っていたことがわかります。ヤコブとヨハネが雷の子と呼ばれていたのは、彼らが互いに話すとき、あるいは他の人に語り掛けるときに愛情たっぷりに話していたからではありません。前にお話ししたようにレビと呼ばれたマタイは不誠実なことで有名な取税人として働いていました。この罪深さの認識は、イエスに真に従う人たちを常に特徴づけるものです。二つ目に、これらの人たちは多様な人々であったということです。少なくとも、漁師がいれば取税人もおり、熱心党員という政治革命家もいました。彼らは社会の中で非常に異なる場所にいる人たちでした。これは今でもキリストに従う人たちを定義付ける特徴です。教会は外の社会と同じようなものであるべきです。社会に社会的階層、人種、民族の多様性があるならば、教会の中にもその多様性が反映されているべきです。それについては、私たちの教会のような場所では容易にみることができます。ですが、たとえ社会にそれほどの多様性が見られない場合であっても、教会においては、多様な背景を持つ人々を歓迎する態度があるべきです。**さて、これらの人たちにはキリストに従う人たちに見られる３つめの事実があります。**それは、スーパースターがいないことです。使徒たちは、自分たちが延べ伝える福音の源であるイエスを中心に働いていました。彼らの内の誰かではなく、彼らが従うイエスを指し示していました。この点において教会は罪を犯す可能性があります。キリストを中心とするのではなく、牧師や教師、リーダーを中心とする教会やミニストリーになりえます。それは、神が私たち皆を様々な方法で用いられることはないという意味ではありません。使徒たち全員が、今も私たちが読んでいる新約聖書の一書を書いたわけではありません。でも全員が人々に主イエス・キリストを生涯指し示しながら、神の御国をさらに発展させるために神に用いられたのです。ですが、ここには４つ目の悲しい事実があります。弟子たちの一人は偽り者でした。この事実は私たちへの警告であるべきです。イエスはユダが偽の弟子であることをご存じでしたが、彼を拒まず仲間に加えられました。後に弟子たちも、彼が献金をくすねていたことに気づきましたし、イエスに対する陰謀を企てた張本人であったこの男について、彼が本当は何者であるか、イエスは他の弟子たちに警鐘を鳴らすこともありませんでした。この男は、他の弟子たちにその正体が明らかになるまでの 2，３年間、自分を弟子のように見せかけ、弟子たちを欺くことができたのです。ある人が自分はキリストに従う者だと言ったからといって、その人が本当にそうであると思い込んではなりません。どの教会にも偽の信徒がいます。私たちの応答は、自分自身が本当にキリストに従っているのかどうかを吟味するものであるべきです。真の信徒で

ない人はユダがそうであったように、自分から離れていきます。彼らを除くことは私たちの役目ではありません。ですが、私たちはキリストと自分との関係において自分自身を吟味するべきです。

そうする者たちがイエスに従う人たち、少なくともイエスに従うと主張する人たちです。先週の学びはそこで終わりでしたが、20 節からは二つ目のグループであるイエスの家族が登場しています。20 節からにはこうあります。「20　さて、イエスは家に戻られた。すると群衆が再び集まって来たので、イエスと弟子たちは食事をする暇もなかった。 21　これを聞いて、イエスの身内の者たちはイエスを連れ戻しに出かけた。人々が「イエスはおかしくなった」と言っていたからである。」この出来事については章の後半で詳しく書かれていると思われる点を後程見ます。ここで分かることは、イエスの身内の者たちが、そのような事態になりかねない中、イエスに会う時間を当然得られると思っていたということです。マルコの福音書 3 章 31、32 節にはこうあります。「31 さて、イエスの母と兄弟たちがやって来て、外に立ち、人を送ってイエスを呼んだ。 32　大勢の人がイエスを囲んで座っていた。彼らは「ご覧ください。あなたの母上と兄弟姉妹方が、あなたを捜して外に来ておられます」と言った。」家族とは、彼のことを気にかけ、心配する人々であるはずですが、彼らはイエスのことを恥ずかしく思い、イエスの言葉が行き過ぎたものだと考えていました。食事をさせ、多くの人を惹きつけると同時に敵も作っている、彼の恥ずかしい教えをやめさせるために、次の箇所で見られるように、イエスを群衆から遠ざけようとしたのでしょう。ですが実際には、イエスの身内の者たちは彼のことを気にかけ、他人にどのように見られているのかを心配しているように見えましたが、イエスのことを完全に誤解しておりました。キリストと共に育ち、彼を間近で見ていたからこそ、イエスに最も従うべきものたちであったはずなのに、他人を不愉快にさせないイエスとだけ関わりたかったのです。

今日のキリスト教信徒の中にも、キリストを望みながらもキリストの教えの多くを拒絶する新しいクリスチャンの群れが増えています。彼らは「あなたの隣人を愛しなさい」という命令は受け入れますが、マタイの福音書 19:5 で「そして、『それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである』と言われました。」と、神が一人の男と一人の女の結婚という神の定めをイエスが肯定したことについては見過ごそうとします。イエスに個人的に召され、神の権威と聖霊により、神が定めた結婚以外のすべての性関係を明確に非難した使徒パウロを拒絶します。神は使徒パウロを通してコリント人への手紙第一 6:9 で「あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。思い違いをしてはいけません。淫らな行いをする者、偶像を拝む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者」と言われています。つまり、イエスの家族と同じように、そうした人たちは、少なくともイエスを知っていて愛していると主張しますが、実際にはイエスの言われることを恥としているのです。私たちもより小さなことでこれと同じように振る舞うことができます。福音を分かち合いたいけれど、誰も自分が罪人だなんて聞きたがらない。だから神の愛とイエスを通して私たちが受け入れていただけることだけを話し、罪の問題については触れようとしません。

また 22 節からは 3 つ目のグループが登場します。それは偽教師です。22-27 節を読みましょう。「22　また、エルサレムから下って来た律法学者たちも、「彼はベルゼブルにつかれている」とか、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出している」と言っていた。 23　そこでイエスは彼らを呼び寄せて、たとえで語られた。「どうしてサタンがサタンを追い出せるのですか。 24　もし国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。 25　もし家が内部で分裂したら、その家は立ち行きません。 26　もし、サタンが自らに敵対して立ち、分裂したら、立ち行かずに滅んでしまいます。 27　まず強い者を縛り上げなければ、だれも、強い者の家に入って、家財を略奪することはできません。縛り上げれば、その家を略奪できます。 28　まことに、あなたがたに言います。人の子らは、どんな罪も赦していただけます。また、どれほど神を冒瀆することを言っても、赦していただけます。 29　しかし聖霊を冒瀆する者は、だれも永遠に赦されず、永遠の罪に定められます。」 30　このように言われたのは、彼らが、「イエスは汚れた霊につか

れている」と言っていたからである。」この個所は「赦されざる罪」として知られるものを取り上げている、非常に有名でよく議論される箇所です。ここでも宗教指導者たち、とくに律法学者が登場します。彼らは誰よりも神を知っていて、旧約聖書の理解に基づいて、他の人々が神を知り、神に仕えるよう教えることができると主張している人々です。それにも関わらず神の御子であるイエス・キリストを拒んでいるので、偽教師なのです。彼らが群衆をイエスに敵対させようとして何を言っているのかをイエスはよくご存じでした。30 節からの箇所で、イエスがサタンに操られていて、悪霊かけがれた霊につかれているのだと言っています。ベルゼブルという言葉は旧約聖書の時代の偽りの神であるバアルと何らかの関係があり、イエスの反応からもわかるように、サタンの呼び名として使われるようになっていました。イエスはその考えがなんと馬鹿げたものかと指摘しています。サタンがサタンを追い出すということは、自国と戦っている国や互いに争う家族のようなものです。そのような国や家族は崩壊します。自分を負かすようなものですから、サタンが自分の悪霊を追い出したりはしないでしょう。

この、律法学者たちがイエスはサタン自身によって力を得ているのだと非難したことから、その「赦されざる罪」について最もよく理解するすることができます。イエスは聖霊を冒涜するする以外はどのような罪でも赦されるといわれました。さてそれは具体的に何を意味するのでしょうか。そして、私たちがそのような罪を犯すことがあるのでしょうか。まず、イエスはこれが聖霊に対する冒涜だとおっしゃったことを理解する必要があります。なぜなら、イエスが神として地上でなされた御業は聖霊の力によってなされたものであり、今日私たちイエスに従う者もその力を与えられているからです。ここでのイエスの言葉を、宗教指導者たちが言ったことに基づいて私たちも解釈しなくてはなりません。それは、普通に考えれば聖霊なる神の御業をサタン自身のものとするということです。それが一度きりのことではなく、継続的、習慣的な態度と行為であり、この宗教指導者たちの場合がまさにそうでした。これが赦されざることで、永遠に続く結果をもたらす理由は、善と悪を見分けることができないものは悔い改めることがないからです。イザヤ書 5:20 にあるように「わざわいだ。 悪を善、善を悪と言う者たち。 彼らは闇を光、光を闇とし、 苦みを甘み、甘みを苦みとする。」です。赦しを得るためには、自分の個人的な罪を実際に認識しなくてはなりませんが、パリサイ人は本当の罪や神の働きを認識することができませんでした。英国国教会の偉大な神学者 J.C.ライルは、この個所について非常に良い見解を述べています。「決して赦されない罪というものがある。けれど、それを思い悩む者がそうした罪を犯す可能性は非常に低い。」つまり、これらの偽教師たちは救いからほど遠い人たちで、イエスと完全に対立する存在でした。

この個所で 3 つのグループの人たちと、イエスに対する彼らの反応を見てきました。従う人たち、家族、そして偽教師です。もちろん、マルコの福音書での学びのテーマから考えるに、マルコは私たちにイエスに従う者となるよう勧めていることが分かります。私たちは、最初の使徒たちと同じような召しを受けることがあるでしょうか。それはありません。ですが、イエス・キリストへの信仰と、イエスがこの世で成し遂げてくださった御業により、私たちはイエス・キリストに従う人たちの一人となるのです。ガラテヤ人への手紙 2:20 には「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。」とあります。キリストは私たちの罪を贖うために十字架で死んでくださいました。そして、キリストに信頼し、キリストを信じるとき、私たちはキリストと結ばれます。最初の弟子たちのように、私たちが物理的にキリストと共にいることはかないませんが、キリストが使徒と呼んだ人たちと同じように具体的で現実的なつながりを持って霊的に結ばれています。さて、キリストに結ばれている人は、もちろんイエスに知られている人たちですが、キリストに従うと言っていてもそこに属さず、キリストにも知られていない人たちもいます。彼らは従う者というよりも、実際は偽教師たちに属する人たちで、同じ目的に向かって同じ道を歩みます。

ですが、従う人たちであっても、イエスの家族のように振る舞うことが多々あります。イエスに従う者であることを恥じてしまいます。周囲から目立つことを恥じ、生活し働いている社会の価値観ではなく、私たちの救い主を反映した価値観によって突き動かされることを恥ずかしく思います。キリストに最初に従った人たち、少なくとも特別に召され聖別された真の弟子たちは、皆が最終的にイエスと福音のために命を捧げました。迫害され、イエスを宣べ伝えることを止めなかったために殺されました。それにも関わらず、イエスに忠実に従った彼らの姿は世界に大きな変化をもたらしました。使徒の働きでは、後に彼らに加わることとなった使徒パウロとシラスが17：6 で「世界中を騒がせてきた者たち」と説明されています。これがイエス・キリストに献身的に従う者たちと、家族や仕事場において阻害されたり目立ったりしないよう身を潜めたがる弱々しいクリスチャンの違いです。それはイエスに従う人たちとイエスの家族との違いです。感謝なことにイエスの肉親たちもまた完全に献身し従う人たちになることができます。実際、イエスの異父兄弟であるヤコブは、この時イエスを連れ帰そうと家の外にいたと思われますが、最終的には新約聖書のヤコブ書を書きました。異父兄弟を信じていたかもしれないけれど、彼のことを恥じた男が、そのヤコブ書 2:17 で「信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。」と言っています。彼はもはや恥じてはいませんでした。イエス・キリストに従う者として、信仰を全うすることに全力を注ぎました。皆さんはキリストとの歩みの中でどのような位置におられますか。イエスを完全に拒絶した偽教師の一人になってはいないでしょうか。自分の罪と、自分がイエスを必要としていることを少しでも認識しているのであれば、悔い改めて赦しを得ることができます。イエスが赦すことのできない罪を犯しているわけではありません。不信仰を悔い改めていないので、イエスへの不信仰と拒絶がイエスが赦されない唯一の罪です。またあるいは、イエスとその言葉を恥ずかしがったイエスの家族たちと霊的に同じ場所におられるかもしれません。今日、悔い改め、イエスに完全に従うところへ戻りましょう。どんな犠牲を払わなくてはならなくても、キリストが導いてくださるところでキリストの呼びかけを追い求めましょう。祈ります。

Mark 3:13-30 Followers, Family or False Teachers

Today we are going back to the last section of our passage from last week. I want us to pick up the book of Mark at chapter 3, verse 13, and look at the choosing of the disciples again and tie it in this time with the verses that come after verse 19, and go all the way to verse 27. The reason I want us to return to that same passage is because starting with the disciples or apostles, there are three groups of people that Mark discusses. Each of these three groups has a different response to Jesus. And each of these three groups can define our response to Jesus today. The question we need to answer is are we followers, family or false teachers? Let's begin reading first about the **followers of Jesus** starting in our passage from last week, verse 13. 13 And he went up on the mountain and called to him those whom he desired, and they came to him. 14 And he appointed twelve (whom he also named apostles) so that they might be with him and he might send them out to preach 15 and have authority to cast out demons. 16 He appointed the twelve: Simon (to whom he gave the name Peter); 17 James the son of Zebedee and John the brother of James (to whom he gave the name Boanerges, that is, Sons of Thunder); 18 Andrew, and Philip, and Bartholomew, and Matthew, and Thomas, and James the son of Alphaeus, and Thaddaeus, and Simon the Zealot,[a] 19 and Judas Iscariot, who betrayed him.

Of course, we read this passage last week, but let's remind ourselves what we see about the followers of Jesus from these men. **First, we know that they were sinners**, and recognized that about themselves. Take Peter for example. As we continue through the book of Mark, we will see that these events that Peter is recounting through Mark do not give us this idea that he is some great saint, but rather that he is a sinner in need of this Savior, Jesus. James and John were not called the Sons of Thunder because they spoke lovingly to each other or to other people. As we talked about earlier, Levi, or Matthew worked in a profession of tax collecting that was well known for its dishonesty. This recognition of sinfulness will always characterize true followers of Jesus **The Second fact we see about this group is that they were diverse**. They were at least fisherman, a tax collector, and a political revolutionary (zealot). They were in very different places in their society. This still defines followers of Christ. The church should look like the society around it. If the society has diversity of social classes, of races and ethnicities then the church should ideally reflect that diversity. Of course that is easy to see in a church like ours. But even where the surrounding society doesn't have much diversity, within the church, we should at least have an attitude that welcomes those with diverse backgrounds. There is a **third fact about Christ followers that we see in this group. There were no superstars**. The group of apostles revolved around the one whose gospel they were preaching, Jesus. The focus was not on any one of them, but on the one they followed. We can be guilty of this in church. We can have churches or ministries that revolve around the personality of a pastor or a teacher or leader rather than around Christ. That's not to say that God doesn't choose to use us all in different ways. Not all of the apostles wrote a book of the New Testament that we are still reading today. But all of them were used by God to further his kingdom as they pointed people for the rest of their lives to their Lord, Jesus Christ. But there is a sad fourth fact here as well. **One of these disciples was false**. This fact should be a warning to us. Jesus knew that Judas was a false disciple, and yet included him, rather than rejecting him. He did not raise any red flags about who he really was to the other disciples, although later, they would realize he was stealing money from their offerings and would make a plot against Jesus. But he was able to look just like one of them and deceive

them for somewhere between 2 and 3 years before it became clear to the other apostles who he really was. We should never assume that just because someone says they are a follower of Christ that they really are. There are false disciples in every church. Our response should be too examine ourselves to ensure that we ourselves are truly following Christ. Those who are not true will fall away as Judas eventually did; it's not our job to root them out. But we should examine ourselves in light of our relationship with Christ.

Those were Jesus's followers or at least those who claimed to follow Jesus. Of course that's where we ended last week, but when we pick it back up at verse 20 we see a second group of people – **the family of Jesus**. Verse 20 says, Then he went home, and the crowd gathered again, so that they could not even eat. [21] And when his family heard it, they went out to seize him, for they were saying, "He is out of his mind." We will cover what seems to be more detail about this event later in this chapter. There, what we see is that Jesus's immediate human family did feel an entitlement to his time that could have led to an event like this. Verse 31 and 32 here in Mark 3 says, 31 And his mother and his brothers came, and standing outside they sent to him and called him. 32 And a crowd was sitting around him, and they said to him, "Your mother and your brothers are outside, seeking you." To be family is to be people who care about him and are concerned for him, but they are embarrassed for him, and think he has gone too far in what he is saying. Their idea was to get him away from the crowds so they could probably get him some food, and try to talk him out of his embarrassing teachings that were drawing crowds but were also making enemies, which we will see in the next verses. But the fact was that as much as these family members seemed to care about him and how he was perceived, they misunderstood him completely and he was embarrassing them. While they should have been some of his strongest followers having grown up with him and very closely watching him, they only wanted to be associated with a certain version of him that did not offend others.

Today in Christianity there is a growing group of progressive Christians that want to claim Christ, but reject many of his teachings. They are fine with his command to "love your neighbor as yourself," but want to overlook that he affirmed the God ordained marriage order of one man and one woman when he said in Matthew 19:5, 'Therefore a man shall leave his father and his mother and hold fast to his wife, and the two shall become one flesh'? They reject the apostle Paul who was personally called by Jesus and wrote very clearly under the inspiration and authority of God the Holy Spirit condemning all sexual activity outside of God ordained marriage. In 1Corinthians 6:9 God says through the Apostle Paul, 9 Or do you not know that the unrighteous will not inherit the kingdom of God? Do not be deceived: neither the sexually immoral, nor idolaters, nor adulterers, nor men who practice homosexuality… So just like Jesus's family, they at least claim to know and love Jesus but are actually embarrassed by what he says. We can act this same way in a many smaller ways. We want to share the gospel, but no one wants to hear that they are a sinner so we only talk about God's love and acceptance of us through Jesus, but not the problem of our sin.

But there is a third group that comes onto the scene in this passage starting in verse 22, and these are the **false teachers**. Let's read verses 22-27. [22] And the scribes who came down from Jerusalem were saying, "He is possessed by Beelzebul," and "by the prince of demons he casts out the demons." [23] And he called them to him and said to

them in parables, “How can Satan cast out Satan? [24] If a kingdom is divided against itself, that kingdom cannot stand. [25] And if a house is divided against itself, that house will not be able to stand.[26] And if Satan has risen up against himself and is divided, he cannot stand, but is coming to an end. [27] But no one can enter a strong man's house and plunder his goods, unless he first binds the strong man. Then indeed he may plunder his house. [28] “Truly, I say to you, all sins will be forgiven the children of man, and whatever blasphemies they utter, [29] but whoever blasphemes against the Holy Spirit never has forgiveness, but is guilty of an eternal sin”— [30] for they were saying, “He has an unclean spirit.” This is a very famous and often discussed passage that deals with what is known as the “unpardonable sin.” Once again, we see the religious leaders, specifically the Scribes. These are the ones who claim to know God better than anyone and be able to teach others to know and serve God based on their understanding of the Old Testament. And yet, they are false teachers because they are rejecting God’s Son, Jesus Christ. Jesus knows exactly what they are saying as they try to turn the crowds against him. They are actually accusing Jesus of being possessed by Satan himself and having a demon or an unclean spirit from verse 30. The word Beelzebul is somehow related to the false god, Baal, from Old Testament times, and had come into use as a term for Satan as is clear from Jesus’s response. Jesus points out how ridiculous that idea is. Satan casting out Satan is like a kingdom at war with itself or a family that fights with each other. The kingdom will crumble and the family will fall apart. Satan would not be casting out his own demons because that would be self-defeating.

That’s when we get to this “unpardonable sin” that is best understood in light of the Scribes accusing Jesus to be empowered by Satan himself. Jesus says that any sin can be forgiven except blasphemy against the Holy Spirit. Now what exactly does that mean? And is this even something that we might be guilty of? First, we need to understand that Jesus addresses this as blasphemy against the Holy Spirit, because the works he did on earth as God, he did under the empowerment of the Holy Spirit, who also empowers his followers today. We have to interpret his words here by what the Religious leaders had said. This means that the regular meaning would be ascribing the works of God the Holy Spirit to Satan himself. This is not a one time act, but an ongoing habitual attitude and action, which is exactly the case in these religious leaders. The reason it is unforgivable and has eternal consequences is because anyone who cannot distinguish evil from good and good from evil, is beyond the pale of repentance. As Isaiah 5:20 says, Woe to those who call evil good and good evil, who put darkness for light and light for darkness, who put bitter for sweet and sweet for bitter! In order to find forgiveness, you actually have to recognize your personal sin, but the Pharisees failed to recognize real sin or even the work of God. The great Anglican theologian, J.C. Ryle made the best observation regarding this text. “There is such a thing as a sin which is never forgiven. But those who are troubled about it are most unlikely to have committed it”. So, these false teachers were as far away from salvation as you could get and in total opposition to Jesus.

So in this passage, we have seen three groups of people and their response to Jesus. We see followers, family and false teachers. Of course, given the theme of our study in Mark, we know that Mark is encouraging us to be among the followers of Jesus. Are we going to receive the same type of call that these first apostles did? No, but through faith in Jesus Christ and the work he accomplished for us here on earth, we are one of those numbered with the followers of Jesus Christ. Galatians 2:20 says, 20 I have been

crucified with Christ. It is no longer I who live, but Christ who lives in me. And the life I now live in the flesh I live by faith in the Son of God, who loved me and gave himself for me. Christ died for us on the cross to pay for our sin. And when we trust in him, put our faith in him, then we are joined with Christ. We may not be physically with Christ as these first disciples were, but we are spiritually united to Christ with as much a tangible and real connection with him as all of those who he called apostles. Now, all of those who are united to Christ are of course clearly know to Jesus, but on the outside, there are those who claim to be followers of Christ but are not. Rather than followers, they are actually part of the false teachers in that their trajectory and path in life is leading to the same destination.

But even followers can too many times act like Jesus's family. We are embarrassed to be followers of Jesus. We are embarrassed to stand out from the world around us, to be driven by different values that reflect our Savior rather than the values of the social structures we live and work in. These first followers of Christ, at least all the true disciples, who were set aside to be his specially appointed apostles, eventually all gave their lives for the sake of Jesus and the gospel. They were persecuted and killed for their refusal to not stop preaching Jesus. And yet, their faithfulness in following Jesus made such a difference in the world that at one point in the book of Acts, the apostle who joins them later, Paul and his companion Silas are described as "These men who have turned the world upside down… in Acts 17:6. That is the difference between a sold out committed follower of Jesus Christ and a weak Christian who just wants to keep a low profile so they don't get marginalized or stick out in their families or their jobs. It's the difference between Jesus's followers and Jesus's family. Thankfully Jesus's human family can actually grow in their commitment to also be fully committed followers. In fact, one half-brother of Jesus, James, who likely was there outside that house to seize him, ultimately wrote the New Testament book of James. In that book, the man who may have believed in his half-brother but was embarrassed by him said in James 2:17, 17 So also faith by itself, if it does not have works, is dead. He wasn't ashamed anymore. He was committed to fully living out his faith as a follower of Jesus Christ. Where are you at in your walk with Christ today? Are you part of the false teachers who fully reject Jesus? If there is any recognition of your sin and your need of Jesus, there is opportunity for you to repent and find forgiveness. You have not committed the unpardonable sin that Jesus cannot forgive. Unbelief and rejection of him is the only sin he won't forgive because you haven't repented of that unbelief. Or perhaps you are here today in the same spiritual place as Jesus's human family who were embarrassed by him and his words. Repent today and return to a place of fully following Jesus. Commit to pursuing the call of Christ wherever he leads, at whatever cost it takes. Let's pray.